

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900222		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート船橋三山 (1階)		
所在地	千葉県船橋市三山5-57-17		
自己評価作成日	平成28年2月29日	評価結果市町村受理日	平成28年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成28年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会、町内会ともにしっかり機能しており、地域の協力体制が強いものになっている為、地域の行事への参加、また、畑の栽培、収穫を地域の方にもご協力頂き、共に行い、地域交流、連携の強化に努めています。
 日々の生活の中にADLの維持、向上できるような考え、実践していく環境があります。また、お客様個々を把握し、信頼関係の構築が上手く出来ていることもあり、介護度が高くなったとしても自施設にて変わらずにお過ごしになることが出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者へのサービス内容や支援、業務手順の共有化を図るために、ユニット会議を定例化し、職員間において情報共有が図れるように取り組んでいる。日々の支援においてもレクリエーションの実施や外出行事を定期的に取り入れる等、生活の活性化を図り、楽しく生活が送れるように取り組んでいる。また、認知症の周辺症状の緩和を目的とした「ミッケルアート」の導入や身体機能低下防止を図るために、ホーム内でのリハビリの実施などにも前向きに取り組んでいる。今後に向けては、地域との交流充実にも前向きに取り組み、利用者と地域との関わりがより充実していく事を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念の説明を行っている。また、館内に掲示し、スタッフ間で共有し、日々の業務につなげている。	会社の社是、経営理念、心得を事業所入口に掲示している。職員の理解を深めるために、日々の申し送りや毎月のユニット会議で、分かりやすく管理者から説明し、実践できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩以外にも、様々なボランティアの受け入れや地域活動、地域の祭りにも参加し、地域との交流と理解を深めている。	お茶会やフラダンス、コーラスなどの地域のボランティアが定期的に来所し利用者と交流を図っている。また、事業所敷地内の畑での収穫作業の際に近隣住民の方にも声をかけ、一緒に取り組む事ができるように努めている。	ボランティアの方と定期的に交流されているが、今後に向けては、地域行事への参加など、地域との関わりがより充実していく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談といった部分でのお問い合わせを頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様アンケートの実施結果報告、社内のネットワークを生かし他拠点の管理者に来て頂き、当施設の活動報告に留めずにアイデアを出し、活かしつつ運営推進会議を行っている。	会議には、民生委員、地域包括支援センター、家族代表者の方の参加を受け、2ヶ月に一度定期的に実施している。会議では利用者状況や行事報告、また、参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるように努めている。	今後に向けては、自治会の方などの近隣の住民の代表の方の参加も得られると良いであろう。今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か疑問点あった場合には相談したり、メール等で情報交換を行っている。	運営上の疑問点や行政の判断が必要と思われる案件の際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰いでいる。相談ごとには柔軟に対応してくれており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止は、お客様にとってより良い介護サービスを提供する為の出発点という考えを事業所内で持っており、身体拘束を撤廃し、過去例がない。	事業所内において「権利擁護、身体拘束廃止、虐待防止」研修を実施し、職員の意識を高め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。現状事業所内において身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拠点会議にて虐待のサインや虐待の内容について勉強会を行った。また、スタッフが見る連絡ファイルに都度新聞記事をファイリングし、防止への啓蒙を行っている。		

グループホームガーデンコート船橋三山(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記の虐待防止の勉強会と合わせて制度の概要等の勉強会を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の対応時、初回の面談時、契約時にご説明や不安な点等尋ね、理解、納得を図っている。また、入居後も相談があった場合には丁寧にご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは運営推進会議の際や、来訪時等に、お客様からは日々の生活の中で意見や要望をお聞きし、内容を精査した上で出来るところから実施しています。また全ご家族様向けにアンケートを実施し、質問や要望を伺う機会を設けている。	家族からの意見や要望は面会に訪れた際や電話連絡の際に確認している。またお客様アンケートを年に一度実施しており、運営に関する意見等を収集している。利用者本人からは日常会話の中から確認するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通じて出る意見やスタッフ個々での相談や意見、提案は随時相談にのっている。申し送りや連絡ノートを活用し、フィードバックすることを心掛けている。	3ヶ月に一度管理者と職員間において個人面談を実施し、個別に意見や要望を確認している。また業務や支援の見直しに関しては、拠点介護やユニット会議時に確認し、日々の支援につなげていくように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の生活環境、体力面等を考慮してシフトの整備を行っている。社としては資格取得のバックアップ制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を主任、ケアマネ、リーダーが参加。拠点内研修の他に各ユニット毎に月1で会議を行い、ケアについての疑問点や問題点を相互に出し合い改善していく機会を設けております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業他社の方との勉強会に参加させて頂いている。職員への地域情報の波及を今後実施していきたい。		

グループホームガーデンコート船橋三山(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なじみの関係を増やす為に、居室担当制を導入し、個別対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者及び計画作成担当者が窓口となり、不安な点や要望を聴取し、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り、ご本人様やご家族様からのヒアリングを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事を無理強いするのではなく、出来る事をいかに発揮出来るかを重点においてケアしている、また、他者交流も行えるよう、スタッフが常にいる体制にし、スタッフも交えながらより良い関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	上記記載のように、居室担当制が月1回手紙を書いて近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊は原則自由であるので、その方の旧友等の面会等も見受けられる。	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係性の継続に向けては、利用者本人の要望に応じて柔軟に対応し、通い慣れたお店への買い物や家族の協力を得て外出する等の取り組みにつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションを通し、一人、一人が孤立しないよう、お互いにコミュニケーションがとれるよう配慮している。		

グループホームガーデンコート船橋三山(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にも定期的に手紙や電話等行っている。遊びに来たいという要望にもお応えし、実際に遊びに来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の意向や要望を把握し、ケアプランに落としている。より当ホームでの生活を楽しくして頂けるよう努めている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者を中心に初期のアセスメントから状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事を無理強いするのではなく、出来る事をいかに発揮出来るかを重点においてケアしている。申し送りを通じ、心身の状態を把握、記録し情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ご本人様やご家族様とヒアリングし、プラン策定にあたっている。	アセスメントにおいて利用者の現状及び課題を抽出し、アセスメントで得た情報を基に担当者会議において利用者、職員から意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを立案している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、目標の達成度を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に落としている。その記録を基に、事務方を含め情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能をご利用のお客様との交流を行ったり、ユニットだけではなく、全体でレクリエーションを行ったりしている。		

グループホームガーデンコート船橋三山(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周囲の公園への散歩や、神社へのお参り、地域のお祭りに参加、少しでも楽しみが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は往診が可能である。他科受診、ご家族様が通院に行く際は、必要に応じて、施設の様子等情報提供を行うように努めている。	提携先の医療機関による往診が月に2回あり、定期的に主治医の診断を受ける事ができている。担当医とは24時間連絡が取れる体制であり、緊急時や入院が必要になった際にも迅速に対応が図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能の看護師がいる為、介護職員や事務方と情報の共有化を図り、往診や通院時医師に情報をつなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医の紹介状等は迅速に行って頂けるので、家族報告やスタッフの付き添いにより受診し、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアの対応は可能である。ご家族や協力医療機関と話し合いを重ね、出来る限りその方にとってベストであり、ご家族が望む対応を行った。	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生した事案についてスタッフ全体で情報の共有、対策方法の検討を行っている。備えとしては、手薄になる夜間帯に何かあった場合でも事務方や当直者を立て、対応にあたることにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や座学を通じ、スタッフ間で避難方法等のシュミレーションを行った。地域で災害が起きた場合でも、可能な限り受入は可能である。	消防署立会いの避難訓練及び夜間を想定した訓練を年2回計画的に実施している。また、消防署から指摘された内容を受け、その後考課訓練を自主的に行っている。災害時に家族の方にスムーズに連絡を入れる為、メールアドレスも確認している。	今後に向けては、ハザードマップなどで事業所周辺の水害状況の把握や災害時において家族の方と連絡をどのように取るのかより具体的に検討していけると良いであろう。

グループホームガーデンコート船橋三山(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新入社員入社時のオリエンテーションでお客様に対し、馴れ馴れしくならないように、また、冷たい対応を取らないよう声かけや接遇に気をつけ、尊厳を損なわないよう対応している。	事業所内において、プライバシー配慮に関する研修を実施し、職員一人ひとりが利用者に対して適切な対応が図れるように取り組んでいる。居室への入室についてもノックをする、一声かける事を基本にプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースや日々の状態の変化に合わせ希望を叶えるよう創意工夫をしている。衣類の選択や、お客様の〇〇をしたいや食べたいという声があった場合はできる限り実現している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの導線上、食事時間と入浴時間は定めているが、その他の時間に関しては、自由に楽しんで頂いたり、お客様ご自身のペースや希望に合わせたゆとりを持たせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容を入れている。また、女性のお客様でご希望のあった場合には、お化粧やマニキュアを塗ったり爪の手入れをしたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備に関しては無理強いせず、出来る範囲で行って頂いている。行事等、雰囲気を変えて屋外にテーブルを出してお食事を食べたこともある。	利用者の状態を考慮しながら、出来る方には食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。食事を楽しむ工夫では、外食に出かけたり事業所内のケーキ作りなども行い、利用者の食べたいと要望するものに応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期のお茶の時間以外にも、お客様の要望に応じて提供を行っております。水分制限のある方、とろみを利用する方などもいるため、ご利用者様全員の状態に合わせて提供し、一日の摂水量をチェックしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助をし口腔ケアを実施している。訪問歯科の無料健診を取り入れたりと、食前の嚥下体操も実施している。		

グループホームガーデンコート船橋三山(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	GHに入居し、排泄具を取り除いた例もあるが、逆に使用した方もいる。誘導等困難な方もいるが、成功事例を共有し、出来るだけトイレで排泄をして頂けるようにしている。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の記録からデータを採取し、薬に頼らず食事改善や捕食等でコントロールしている。排泄状況は毎日2回必須で申し送りしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	導線上、入浴時間の設定はしているが、毎日入浴できる環境は整えている。拒否の方には、無理強いせず、納得して入浴できるよう支援している。	利用者の体調やタイミングを考慮し、週2~3回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠パターンを把握し、快適に休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理については管理者、ケアマネージャーにて管理を行っております。各ご利用者様の処方薬につきましては薬局からの説明書を事務所内にファイリングをして閲覧できる場所に配置しております。誤薬防止の対応は、記入帳票等を活用し誤薬等が起こらないよう日々注意喚起しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で行う、少人数で行う、個別に行うの3パターンがあり、その日、その時の状態状況により余暇を楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節、気候にもよるが、近隣の公園へ散歩したり、買い物や外食を行い、気分転換を図っている。	天候のよい日には、事業所周辺の散歩に出かけるほか、近隣のファミリーレストランへの外食、ショッピングセンターやフラワーミュージアムへの外出など、外出行事も定期的に行い、戸外に出かける事ができるように取り組んでいる。	

グループホームガーデンコート船橋三山(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社の規定により原則事務で一括管理をしているが、買物時は同行する職員に預け、買物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会はないが、本人のご希望で電話をしたり取り次いだりする事は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にその季節に沿った飾り付けをしたり、お客様の描いたぬりえを掲示したり、行事の写真を貼ったりし、居ながらにして季節を感じさせてくれる空間演出をしております。	共用の空間は、ご利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになるスペースはないが、気の合う同士関わりを持ったり、併設の小規模多機能のお客様との交流をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則、火災につながるものの持込は禁止しているが、その他の持込品については危険が無ければ原則自由であり、馴染みの物をご持参頂いている。ご本人様の要望に応じ、入居後も必要な品物を購入することも可能です。	居室は、ご利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、バリアフリーの設計である。お客様の安全を確保しながら、自立した生活が送れるようになっている。		